

陶芸や絵画 並ぶ



出品された陶芸や絵画＝浜松市都田図書館で

都田で障害者アート展

障害がある人のアート作品展「風を創るひとたち都田版2024」が、浜松市立都田図書館（浜名区都田町）で開かれている。31日まで。

図書館では3回目の開催。絵画計25点は至る所に作品が配置され、館全体を彩る。同市出身の清水優舟さんが手がけたカラフルで抽象的な「孔雀」、浜松みをつくし特別支援学校（浜名区細江町広岡）高等部の大村剛輝さんがサインペンで色鮮やかに仕上げた「虹のことは」などが来館者の目を引く。

陶芸は入り口付近に並び、計30点を数日ごとに入れ替える。アートを通じて障害者の多様な感性を知ってもらおうと、県障害者文化芸術活動支援センター「みらい」と西部拠点（中央区中央）が主催した。休館日は7、21、24、28日。（中野吉洋）

（令和6年10月5日・中日新聞）

音楽の力 障害者と住民結ぶ



にぎやかな音楽会を楽しむ参加者＝伊豆の国市内

伊豆の国 協調性育み地域交流

県障害者文化芸術活動支援センター「みらい」とが、音楽を通じた障害者と住民の交流促進に乗り出した。関係者は「協調性や社会性を育むチャンスがある」と地域展開の広がりを見込んでいる。第一弾として9月、アフリカ伝統打楽器の演奏ワークショップと沖縄民謡の音楽会が、伊豆の国市の就労継続支援B型事業所「フルビート」併設のカフェで行われた。

県支援センターが新展開

20、60代の男女10人が市内外から集う同事業所は、元々アート活動に造詣が深い。日常の姿に著目した同センター関係者が「住民と利用者が音楽会で一つになれば、交流の輪が自然と生まれる。新しい地域の結びつきにつながる」と考え、初開催を提案した。

アフリカ伝統打楽器奏者の田北佳己さん(36)、沖縄民謡の歌い手で賛美歌指導者の山川文敏さん(83)いずれも同市IIが招待された。本番まで練習を重ねてきた利用者ら全員が、アフリカの打楽器「ジャンベ」やサンバホイッスルなどの楽器、草笛を鳴らして歌い、にぎやかに踊った。

同センター東部地区支援コーディネーターの伊藤享子さんは「積極連携などにより力を入れる地元企業なども参加し、関係の幅が広がっ

た」と手応えを語った。音楽療法に詳しい田北さんは「伝統楽器ならではの独特なリズムが、返ってきた」と振り返った。（大七支局・小西雅也）

障害あっても気軽に音楽鑑賞

声出したり動いたり、指揮者体験も

富士



楽しそうに指揮者体験をする来場者
＝富士市のロゼシアター

県障害者文化芸術活動支援センター「みらい」は16日、客席で自由に声を出したり体を動かしたりできる特別コンサートを富士市のロゼシアターで開いた。障害があっても気軽に音楽鑑賞を楽しんでもらおうと企画した。

同市を拠点に活動するフルートアンサンブルがなじみのあるクラシック曲を次々に披露。市内外からの来場者約300人は、音楽に合わせて手拍子をしたり歌ったりして、リラックスした様子だった。軽快なリズムの「ラデツキー行進曲」では指揮者体験を行い、自身のタクトに合わせてテンポが変わる生演奏の面白さを満喫した。

会場では障害のある人が手がけた商品「福産品」の販売なども行った。

（令和6年11月19日・静岡新聞）